# 教員おすすめ図書コーナー推薦書

| 教　員　氏　名<br>佐藤　和宏　先生 | おすすめメッセージ |
|---|---|
| ①　図書名：桐生市事件　―生活保護が歪められた街で<br>著　者：小林美穂子・小松田健一<br>出版社：地平社　　ISBN：9784911256169 | 生活保護の授業を担当している（公的扶助論）。どうしたら学生が自分事として学問に興味を持つか、自分の経験と結びつけて学問を学べるか、教員であれば考える。高経の学生の中には、桐生市の出身や桐生の高校出身の学生がいる。自分の地域の問題に目を閉ざし、理想論だけを掲げる議論に、私は与しない。読まれ「なければ」ならない。読むほうがいい・読むべき、ではない。<br>1日に1000円ずつしか生活保護費を渡さない。被保護者の印鑑を市役所で預かる。急激に保護率が下がる。なぜこんなことが起こったのか。勉強が答えを出すものであるとすれば、学問は問いを立てることだ。しかしそれだけか。<br>地域政策学部で学ぶ学生のために。仲道宗弘さんの追悼のために。群馬や高崎を研究対象とすることをうじうじと悩みながら踏み出せないでいる自分に。 |
| ②　図書名：100年先の憲法へ　―『虎に翼』が教えてくれたこと<br>著　者：太田啓子<br>出版社：太郎次郎社エディタス　　ISBN：9784811808727 | 「男は30超えると保守化する」。最も尊敬している方の一人である、ある女性の先輩からずっと前に言われて、その言葉は今でもずっと心の中にある。<br>2024年の春、「とらつば見てます？」と複数の学生から訊かれた。これは見なくてはと思い、2025年8月から2026年5月までかかって、見た。ここまでストレートに憲法およびフェミニズムを扱う作品があるのかと驚いた。（過去のおススメ、「世界の片隅で日本国憲法をたぐりよせる」も読んでね）<br>授業でしつこく学生に訊く。なぜあなたは学ぶのか。その問いは、文字通り学生に訊いているのが半分、自分に言い聞かせているのが半分。自分にとっては、悪い意味で保守化することに抗い続けるために学ばないといけない。ホモソをアンインストールせよ。学び続けよ。――不必要に人を傷つけないように。 |
| ③　図書名：コーヒータイムの哲学塾<br>著　者：版の会（編）<br>出版社：同時代社　　ISBN：9784886831477 | およそ社会科学は、人権と民主主義をその基底概念としているものと思われる。厳密さを欠く物言いをすれば、民主主義社会における人権保障の問題が社会科学の共通課題だろう。また私は、学生のコメントペーパーや最近見た映画などに触れて余談をするようにしている。幸いにして「そんな無駄な話してんだったら金返せ、こっちは金払ってんだぞ」というコメントはまだ来ていない。<br>「民主主義とは、ひとをバカにしないことです」。ある方から教えていただいて、良い言葉だなと思っていた。古在由重さんが言ったことしか分からないが、授業で必ず紹介するようにしていた。生成aiが、この本に書いてあると教えてくれた。これで学生に本を紹介できる。にしてもさ、まだ言いたいことといっぱいあるから、いま7月下旬なんだけど、1号館の芝生の前で、17回目の授業したいんだけど…え？、誰も参加しない？…まあいいけどさ、うん…うん。 |